

類纂 舊典

皇位繼承篇

卷一 卷二

梅系譜撰

庫	文	閣	内
函	架	冊	號
一	六	一〇	二
〇	三	〇	〇

和	書	門
類	函	號
一	〇	二
三	〇	〇
一	〇	二
三	〇	〇
六	一	〇
冊	架	冊

内閣文庫		
番號	和	10230
冊數	6	(1)
函號	144	22



Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

明治十一年八月刊行

大政官文庫

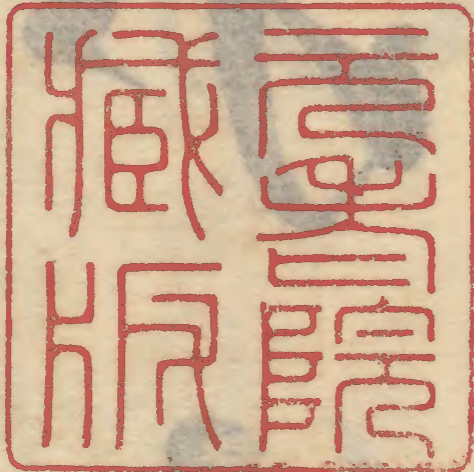
和	一〇二三〇	號
書	函	架
門	冊	共六

呈位繼承篇

元老院藏



御系譜掛



礼

亂

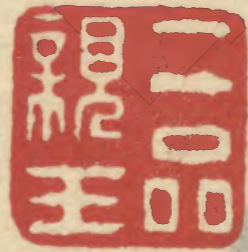
永

錫



明治十一年六月

陸軍大將兼議長議定官
二品大勲位親王熾仁



初

謹按

天祖授神器于皇孫曰寶祚之
隆當與天壤無窮矣至于
太祖神武大業討伐之歲平定寰
宇定宅區夏定天日嗣以開萬世之
基一系相承至于

戶之歷世一百二十有餘閱歲之子
五百之八十年猗歟盛矣此雖出
于祖宗歷世之功德抑亦嫡長
繼承之遺制之因矣竊惟繼承
之制首立嫡長時或立賢立幼其意
純正不敢參以私心及至後世往往
不遵祖宗遺制禍亂相踵而

起豈可不戒哉本院屬有類纂
舊典之舉而正位繼承篇先
成定為書分區周遊讓及廢立
等之目類纂歷年無所遺而其
是非得失之故治亂隆替之跡昭
乎若視諸掌如歐洲列國亦
用意於繼承之事設之憲法

不敢恣移易尔所以绝窥窬於
未然防毒况於未萌焉今夫皇位
之继承考之此篇察是非得失之
故詳治亂隆替之跡著為憲
法則保平南北之事永絕而
寶祚果當與天壤無窮矣
紀文二子五百三十八年明治

十一年六月

元老院幹事正四位勲二等
柳原前光撰并書





舊典類纂 皇位繼承篇

總目

卷一

皇位

皇統

天神授國ノ事

葦原中國ノ主ノ事

寶祚無窮ノ事

天ノ日嗣ハ必ス皇緒ヲ立ツヘキ事

御代數ハ神武天皇ヨリ數ヘシ事

代數ト世數トノ差別ノ事

世數捷覽圖

皇位ノ繼承ニ正位ト不正位トノ別アル事

皇位繼承篇 總目

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a date '十一月六日' and several lines of vertical text.

正位

不正位

皇位繼承一覽表

卷二

皇太子

皇太子ノ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子ノ皇位ヲ繼承シテ後仍天皇ト稱セサリシ事

皇太子ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇太弟

皇太弟ノ皇位ヲ繼承セシ事

皇嫡孫

皇嫡孫ノ皇位ヲ繼承セシ事

日嗣皇子

日嗣皇子ノ皇位ヲ繼承セシ事

卷三

皇子

皇子ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ皇后ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ皇后ト群臣トノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

シ事

皇子ノ羣臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ皇太子ヲ超テ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ立親王ノ儀ナクシテ直ニ皇太子ト為テ皇

位ヲ繼承セシ事

皇子ノ立親王ノ儀ナクシテ直ニ皇位ヲ繼承セシ

事

皇子ノ皇位ヲ繼承スルヲ辞シ而シテ後非常ノ事
故有テ皇位ヲ繼承セシ事
皇子ノ皇太子ノ暴虐ナルヲ以テ撃テ之ヲ滅シ己
コレニ代リ皇位ヲ繼承セシ事

皇女

皇女ノ皇太子ト為リテ皇位ヲ繼承セシ事
皇女ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事
皇女ノ皇后ニ立チ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事
皇女ノ皇后皇位ヲ繼承シテ天皇ト稱セス仍皇后
ト稱セシ事
皇女ノ皇位ヲ繼承シテ仍天皇ト稱セサリシ事
皇女ノ萬機ヲ攝行シ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事
皇女ノ羣臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇女ノ皇后ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ
事

卷四

諸王

諸王ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事
諸王ノ皇太子ト為リ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事
諸王ノ皇子ト為リ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事
諸王ノ降テ臣下ト為リ復昇テ親王ト為リ尋テ皇
太子ト為リテ皇位ヲ繼承セシ事
諸王ノ羣臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

女王

女王ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事
女王ノ皇后ニ立チ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事

幼主

皇太子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇太弟幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

日嗣皇子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇女幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

諸王幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

卷五

定策

群臣先帝ノ遺詔ニ從テ皇位ノ繼承ヲ議定セシ事

群臣皇親ノ中近族ヲ擇ヒ以テ皇位ノ繼承ヲ議定

セシ事

群臣皇親ノ中年長ヲ擇ヒ以テ皇位ノ繼承ヲ議定

セシ事

群臣皇親ノ中徳ノ高キ者ヲ擇ヒ以テ皇位ノ繼承

ヲ議定セシ事

群臣卜筮ニ從テ皇位ノ繼承ヲ議定セシ事

權臣議ヲ建テ群臣コレニ從ヒシ事

卷六

定策異例

後堀河天皇ヨリ以來四條天皇后嵯峨天皇后深草

天皇龜山天皇后宇多天皇伏見天皇後伏見天皇后

二條天皇花園天皇后醍醐天皇ニ至テノ十一代ハ

北條氏ノ奏スル所ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

定策非例

權臣兩皇統迭立ノ議ヲ建テ定メテ治世ノ期限ヲ

十年トセシ事

皇位繼承異例

落飾ノ後初服ニ還リテ皇位ヲ繼承セシ事

落飾シテ後再ヒ皇位ヲ繼承セシ事

皇位繼承非例

神器無クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇位繼承餘論

皇位ハ子孫相承ルヲ以テ常規トスヘキ議アリシ

事

重祚ノ事

重祚ニ似テ重祚ナラザル事

上世ハ皇弟ト雖ヘトモ勲績アレハ皇兄コレニ皇

位ヲ讓ル皇弟乃チ皇兄ノ讓ニ從テ皇位ヲ繼承セ

シ事

皇太子及皇子別髪シテ皇位ノ繼承ヲ辞セシ事

天皇皇族ニ命シテ皇位ヲ繼承セシメント欲シ豫

テ後事ヲ付囑セシ事

皇子ノ皇后ヲシテ皇位ヲ繼承セシメントセシ事

卷七

踐祚

上古ハ踐祚即位別無カリシ事

踐祚ノ嚴飾ヲ衆人ニ縱觀セシメシ事

踐祚異例

應神天皇母后ノ胎中ニ在テ皇位ヲ繼承セシ事

清寧天皇ノ踐祚ノ事

即位

空位

飯豐青尊朝ニ臨ミ政ヲ兼リシ間ハ空位ナル事
空位一覽表

卷八

讓位

天皇疾病ニ由テ皇位ヲ讓リシ事

天皇衰老ヲ以テ皇位ヲ讓リシ事

天皇皇太子ノ長スルヲ俟テ皇位ヲ讓リシ事

天皇災異ヲ以テ皇位ヲ讓リシ事

天皇萬機ニ堪ヘスシテ皇位ヲ讓リシ事

卷九

讓位異例

天皇崩スト雖ヘトモ仍御存在ノ儀ヲ以テ皇位ヲ

讓シ事

天皇時變ニ由テ皇位ヲ讓リシ事

天皇事ヲ舉クルニ便ナラントシテ皇位ヲ讓リシ

事

天皇上皇ノ意ニ從テ皇位ヲ讓シ事

讓位非例

天皇權臣ノ奏スルニ從テ皇位ヲ讓シ事

遜位

廢位

廢位異例

卷十

親族圖

繼承類例

皇統畧系圖

女主ノ皇位ヲ繼承セシ大意

附録

三種神器篇

神器起原

神器傳來ノ事

寶鏡災

天德四年ノ災ノ事

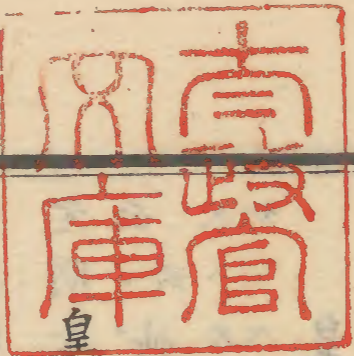
寛弘二年ノ災ノ事

長久元年ノ災ノ事

神宮御正體御動座ノ事

熱田神社御正體御動座ノ事

皇位繼承篇卷之一



皇位

議官 福羽美静 檢閲

少書記官 横山由清

編纂

大書記生 黒川真頼

皇位ハ即ミクラナク、ミハ美稱クラナクハ座居ナリ

天皇高御座ニ坐シテ天下ヲ照臨ス、故ニ天皇天

下ヲ照臨スルヲ天津日嗣高御座ノ業トイフ

神武天皇紀條首 已未年云 三月辛酉朔丁卯下令曰自我東

征於茲六年矣、頼以皇天之威、凶徒就戮、雖邊土未清、餘妖尚梗、

而中洲之地無復風塵、誠宜恢廓皇都、規摹大壯、而今運屬此也、

蒙民心朴素、巢棲穴住、習俗惟常、夫大人立制、義必隨時、苟有利

民何妨聖造、且當披拂山林、經營宮室、而恭臨寶位○寶位ハ即チ皇位ナリ

以鎮元元、上則答乾靈授國之德、下則弘皇孫養正之心、然後兼
 六合以開都掩八紘、而為宇不亦可乎、觀夫畝傍山、宇彌繁、夜摩
 東南、檜原地者、蓋國之塙、區乎可治之、是月即命有司、經始帝宅
 文武天皇紀、條首、十一年、○持統天皇、八月、甲子、朔、受禪即位、
 武天皇、即庚辰、詔曰、云、天皇、御子、之、阿禮、坐、牟、彌、繼、繼、爾、大
 位、天皇、即、庚辰、詔曰、云、天皇、御子、之、阿禮、坐、牟、彌、繼、繼、爾、大
 八島國、將、知、次、止、天、都、神、乃、御、子、隨、爾、天、坐、神、之、依、之、奉、之、隨、此
 天津日嗣、高御座之業、止、現、御、神、止、大、八、島、國、所、知、倭、根、子、天、皇
 命、授、賜、比、負、賜、布、貴、支、厚、支、大、命、乎、受、賜、利、云、云
 元明天皇紀、慶雲四年、秋、七月、壬子、天皇、即位、於、大、極、殿、詔曰
 云、此、乃、天、豆、日、嗣、之、位、者、云、云、○、天、皇、日、嗣、高、御、座、之、業、
 又、八、天、豆、日、嗣、之、位、者、云、云、○、天、皇、日、嗣、高、御、座、之、業、
 知、ル、ハ、天、豆、日、嗣、之、位、者、云、云、○、天、皇、日、嗣、高、御、座、之、業、
 皇統

皇位ノ繼承ハ天照大神及高皇產靈尊ノ詔命ニ

從ヒ、天照大神ノ子孫コレヲ相承クルヲ以テ萬
 世不易ノ法トス、故ニ古語ニ云ク天神國ヲ以テ
 天皇ニ授クト、又云ク天皇ヲ稱シテ葦原中國ノ
 主ト為スト、又皇統ノ長久ナルヲ示レテ寶祚無
 窮トイヒ、皇統ノ一系ナルヲ示レテ天之日嗣必
 立皇緒トイヘリ、コレ臣トシテ覬覦スベカラザ
 ルヲイフナリ

天神授國ノ事

文武天皇紀、條首、高天原廣野、姬天皇、○持統天、十一年、云、八
 月、甲子、朔、受禪即位、庚辰、詔曰、現、御、神、止、大、八、洲、國、所、知、天、皇、大
 命、止、良、麻、詔、大、命、乎、集、侍、皇、子、等、王、臣、百、官、人、等、天、下、公、民、諸、聞、食
 止、詔、高、天、原、爾、事、始、而、遠、天、皇、祖、御、世、中、今、至、爾、麻、氏、天、皇、御、子、之
 阿禮坐、牟彌繼繼、爾、大、八、島、國、將、知、次、止、天、都、神、乃、御、子、隨、母、天

坐神之依之奉之隨此天津日嗣高御座之業止現御神止大八
鳥國所知倭根子天皇命授賜比負賜布貴支厚支大命乎受賜
利恐坐此乃食國天下乎○日本國調賜比平賜比天下乃公
民乎惠賜比撫賜奈母隨神所思行止久詔天皇大命乎諸聞食
止詔云

葦原中國ノ主ノ事

神代紀下卷 皇祖高皇產靈尊云 遂欲立皇孫天津彦彦火
瓊瓊杵尊以為葦原中國之主云 云
古事記上卷 天照大神神之命以豐葦原之千秋長五百秋之
水穗國者我御子正勝吾勝勝速日天忍穗耳命之所知國言因
賜而天降也

寶祿無窮之事

神代紀下卷 一書曰天照大神勅天稚彦曰豐葦原中國是吾

兒尊○天忍穗耳可王之地也然慮有殘賊強暴橫惡之神者故汝
先往乎之云 既而天照大神以思兼神妹萬幡豐秋津姬命配
正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊為妃令降之於葦原中國云 時
天照大神勅曰若然者方當降吾兒矣且將降間皇孫○瓊瓊杵
已生號曰天津彦彦火瓊瓊杵尊時有奏曰欲以此皇孫代降故
天照大神乃賜天津彦彦火瓊瓊杵尊八坂瓊曲玉及八咫鏡草
薙劍三種寶物云 因勅皇孫曰葦原千五百秋之瑞穗國是吾
子孫可王之地也宜爾皇孫就而治焉行矣寶祿之隆當與天壤
無窮者矣

天ノ日嗣ハ必皇緒ヲ立ツベキ事

稱德天皇紀 神護慶雲三年九月己丑云 大神○宇佐八幡
託宣曰我國家開闢以來君臣定矣以臣為君未之有也天之日
嗣必立皇緒

桓武天皇紀 延曆十八年二月 云 乙未贈正三位行民部卿
 兼造宮大夫美作備前國造和氣清磨クニノミヤノ薨本姓磐梨イハヒ別公ワケノキミ右京人
 也後改姓藤原和氣真人清磨為久高直匪躬之節與姊廣虫共
 事高野天皇並蒙愛信任右兵衛少尉神護初授從五位下遷近
 衛將監特賜封五十戶姊廣虫及笄年許嫁從五位下葛木宿禰
 戶主ハヌシ既而天皇落飾隨出家為御弟子法名法均授進守大夫尼
 位委以腹心賜四位封并位祿位田寶字八年大保惠美忍勝叛
 逆伏誅連及當斬者三百七十五人法均切諫天皇納之減死刑
 以處流徒亂止之後民苦飢疫棄子草間遣人收養得八十三兒
 同名養子賜葛木首オホト此時僧道鏡得幸於天皇出入警蹕一擬乘
 輿號曰法王大宰主神習シラキ阿蘇磨アソノ婿事道鏡矯八幡神教言令
 道鏡即帝位天下太平道鏡聞之情喜自負天皇召清磨於牀下
 曰夢有人來稱八幡神使云為奏事請尼法均朕答曰法均軟弱

難堪遠路其代遣清磨汝宜早參聽神之教道鏡復喚清磨募以
 大臣之位先是路真人ミチノト豐永為道鏡之師語清磨云道鏡若登天
 位吾以何面目吾與二三子共為今日之伯夷耳清磨深然其言
 常懷致命之志往詣神宮神託宣云云清磨祈曰今大神所教是
 國家之大事也託宣難信願示神異神即忽然現形其長三尺許
 色如滿月清磨消魂失度不能仰見於是神託宣我國家君臣分
 定而道鏡悖逆無道輒望神器是以神靈震怒不聽其祈汝歸如
 吾言奏之天之日嗣必續皇緒汝勿懼道鏡之怨吾必相濟清磨
 歸來奏如神教天皇不忍誅為因幡負外介尋改姓名為別部ワケベ
 營ウラ流于大隅國尼法均還俗為別部狹虫サハムシ流于備後國道鏡又追
 將殺清磨於道雷兩晦暝未即行俄而勅使來僅得免于時參議
 右大辨藤原朝臣百川愍其忠烈便割備後國封鄉廿戶送充於
 配處寶龜元年聖帝踐祚有勅入京賜姓和氣朝臣復本位名姊

廣虫又掌吐納、叙從四位下任典藏累至正四位下

御代數ハ神武天皇ヨリ數ヘシ事

榮花物語月の 世はトヤリト後このくまのみつど六十

よ代○宇多天 皇ヲイフ 小あはせ給ふけむと此次身つきつくと

きよあはせ

大鏡卷一 六の世をトヤリト此ちみうどハまが神の世七

代をかきたまつりト神武天皇をまめ奉りト崇帝

皇○後一條天 皇ヲイフ まで六十八代もどあはせ給ひあけ

水鏡上卷 まが神の代七代、その、ち伊勢太神宮の御世

より、うはのやふきあはせ給のみことまを五代、あはせと十

二代のことハ、ことなまあらをトヤさんまつけとをより

おろく侍るべし、神武天皇よりヤ侍るべきあり、そはみ

うどくらあもつき給ひト辛酉のトより、嘉祥三年庚

午のトもどぐ千五百世二年もやありぬらん、その石どみ

ど五十四代どおそまけむ

扶桑略記卷二 應神天皇十六云 仁徳天皇十七

神皇正統記上卷 人皇第一代神日本磐余彦天皇と申を後

小神武と名づけ奉る

代數ト世數トノ差別ノ事

歷世ノ天皇高御座ノ業ヲ相繼グ、コレヲ代トイ

フ父子相繼グコレヲ世トイフ、次下ニ其ノ圖ヲ

為リテ以テ捷覽ニ備フ

神皇正統記上卷 第十四代第十四仲哀天皇ハ日本武尊第

二の子景行の御孫あり、御母ハ兩道入姫垂仁天皇の女あり、

大祖神武より第十二代景行までハ代はトヤリト繼體ト給ふ、

日本武尊世をトヤリト給ひトより成務天皇是を繼給ふ、

此天皇 ○仲哀天 皇ヲイフ を太子としてつづりまゝに、よりの代と世
どかちをさるるを、めあり、是よりハ世を本とさるゝ奉るべき
あり 代と世との常の義差別あり、ちうせどもおろよその紹
運ともこととの継體とを分別せんか、りる書分なり、但字
書も其のさるる死て子立を世と云とあり

第一世 神武天皇

第二世 綏靖天皇

第三世 安寧天皇

第四世 懿德天皇

第五世 孝昭天皇

第六代 孝安天皇

第七代 孝靈天皇

第八代 孝元天皇

第九代 開化天皇

第十代 崇神天皇

第十代 垂仁天皇

第十一代 景行天皇

第十三代 日本武尊 景行天皇之子 成務天皇之兄

第十三代 成務天皇

第十四代 仲哀天皇

第十五代 應神天皇

第十六代 仁德天皇

第十七代 履仲天皇 仁德天皇之子 及正天皇之兄

第十八代 及正天皇 仁德天皇之子 履仲天皇之弟

第十九代 允恭天皇 仁德天皇之子 及正天皇之弟

第二十代 安康天皇 允恭天皇之子 雄略天皇之弟

第二十代 雄略天皇 允恭天皇之子 安康天皇之弟

第二十一代 清寧天皇

第二十六代 市邊押磐皇子

第廿三代 顯宗天皇 復仲天皇之孫 仁賢天皇之弟

第廿四代 仁賢天皇 復仲天皇之孫 顯宗天皇之兄

第廿五代 武烈天皇

第廿六代 繼體天皇 應神天皇五世之孫

第廿六世 推淳毛二派皇子

第廿七世 宇非王 第廿九世 彦宇斯王

第廿七代 安閑天皇 繼體天皇之子 宣化天皇之兄

第廿八代 宣化天皇 繼體天皇之子 安閑天皇之弟

第廿九代 欽明天皇 繼體天皇之嫡子 宣化天皇之弟

第三十代 敏達天皇 欽明天皇之子 用明天皇之兄

第卅一代 用明天皇 欽明天皇之子 敏達天皇之弟

第卅二代 崇峻天皇 欽明天皇之子 用明天皇之弟

第卅三代 推古天皇 欽明天皇之子 崇峻天皇之弟

第卅四代 舒明天皇 敏達天皇之孫 皇極天皇之伯父

第卅五代 皇極天皇 敏達天皇之曾孫 孝德天皇之弟

第卅六代 孝德天皇 敏達天皇之曾孫 皇極天皇之弟

第卅七代 齊明天皇 皇極天皇重祚

第卅八代 天智天皇 舒明天皇之子 天武天皇之兄

第卅九代 弘文天皇 天智天皇之子 持統天皇之弟

第卅代 天武天皇 舒明天皇之子 天智天皇之弟

第卅代 持統天皇 天智天皇之女 弘文天皇之姊

第卅一代 文武天皇 天武天皇之孫 元正天皇之兄

第卅六世 高宮天皇 皇草履子

第卅代 元明天皇 天智天皇之女 持統天皇之姊

第卅代 元正天皇 天武天皇之孫 文武天皇之姊

第廿八代 聖武天皇 文武天皇之子

第廿六代 崇道盡敬皇帝 舍人親王

第廿七代 淳仁天皇 天武天皇之孫

第廿六代 田原天皇 施基皇子

第廿七代 光仁天皇 天智天皇之孫

第廿九代 平城天皇 桓武天皇之子
嵯峨天皇之兄

第廿九代 淳和天皇 桓武天皇之子
嵯峨天皇之弟

第卅一代 文德天皇 仁明天皇之子
光孝天皇之兄

第卅三代 陽成天皇

第卅代 孝謙天皇

第卅九代 稱徳天皇 孝謙天皇重祚

第卅八代 桓武天皇

第卅九代 嵯峨天皇 桓武天皇之子
平城天皇之弟

第卅代 仁明天皇

第卅一代 清和天皇

第卅二代 光孝天皇 仁明天皇之子
文德天皇之弟

第卅九代 宇多天皇

第卅六代 醍醐天皇

第卅四代 朱雀天皇 醍醐天皇之子
村上天皇之兄

第卅四代 村上天皇 醍醐天皇之子
朱雀天皇之弟

第卅五代 冷泉天皇 村上天皇之子
圓融天皇之兄

第卅五代 圓融天皇 村上天皇之子
冷泉天皇之弟

第卅六代 花山天皇 冷泉天皇之子
三條天皇之兄

第卅六代 一條天皇

第卅七代 三條天皇 冷泉天皇之子
花山天皇之弟

第卅七代 後一條天皇 一條天皇之子
後朱雀天皇之兄

第卅八代 後朱雀天皇 一條天皇之子
後一條天皇之弟

第卅八代 後冷泉天皇 後朱雀天皇之子
後三條天皇之兄

第七十代 後三條天皇 後朱雀天皇之子
後冷泉天皇之弟

第七十代 白河天皇 第廿九世

第七十代 堀河天皇 第四十世

第七十代 鳥羽天皇 第四十世

第七十代 崇德天皇 鳥羽天皇之子
後白河天皇之兄

第七十代 近衛天皇 鳥羽天皇之子
後白河天皇之弟

第七十代 後白河天皇 鳥羽天皇之子
近衛天皇之兄

第七十代 二條天皇 後白河天皇之子
高倉天皇之兄

第七十代 六條天皇 第三十九代
第三十四世

第七十代 高倉天皇 後白河天皇之子
二條天皇之弟

第七十代 安德天皇 高倉天皇之子
後鳥羽天皇之兄

第七十代 後鳥羽天皇 高倉天皇之子
安德天皇之弟

第七十代 土御門天皇 後鳥羽天皇之子
順德天皇之兄

第七十代 順德天皇 後鳥羽天皇之子
土御門天皇之弟

第四十代 後高倉院 親守王

第七十代 仲恭天皇 第三十六代
第三十六世

第七十代 後堀河天皇 高倉天皇之孫
第三十四世

第七十代 四條天皇 第三十七代
第三十六世

第七十代 後嵯峨天皇 土御門天皇之子
第三十六世

第七十代 後深草天皇 後嵯峨天皇之子
龜山天皇之兄

第七十代 龜山天皇 後嵯峨天皇之子
後深草天皇之弟
第三十七代
第三十七世

第七十代 後宇多天皇 第三十八代
第三十八世

第七十代 伏見天皇 第三十九代
第三十八世

第九十四代 後伏見天皇
伏見天皇之子
花園天皇之兄

第九十四代 後二條天皇
後宇多天皇之子
後醍醐天皇之兄

第九十五代 花園天皇
第九十九代

第九十六代 後醍醐天皇
後宇多天皇之子
後二條天皇之弟

第九十七代 後村上天皇
第九十九代

第九十八代 後龜山天皇
第九十九代

第九十八代 光嚴天皇
後伏見天皇之子
光明天皇之兄

第九十九代 光明天皇
後伏見天皇之子
光嚴天皇之弟

第九十九代 崇光天皇
光嚴天皇之子
後光嚴天皇之兄

第一百代 後光嚴天皇
光嚴天皇之子
崇光天皇之弟

第一百零一代 後圓融天皇
第一百零二代

第一百零二代 後小松天皇
第一百零三代

第一百零四代 稱光天皇
第一百零五世

第一百零五代 後花園天皇
崇光天皇之曾孫
第一百零六世

第一百零六代 榮仁親王
第一百零七世

第一百零七代 後崇光院親王
第一百零八世

第一百零八代 後土御門天皇
第一百零九世

第一百零九代 後柏原天皇
第一百一十世

第一百一十代 後奈良天皇
第一百一十一世

第一百一十一代 正親町天皇
第一百一十二世

第一百一十二代 陽光院親王
第一百一十三世

第一百一十三代 後水尾天皇
第一百一十四世

第一百一十四代 後陽成天皇
正親町天皇之孫
第一百一十五世

第一百一十五代 後水尾天皇
第一百一十六世

第一百一十六代 明正天皇
後水尾天皇之子
後光明天皇之弟

第一百一十七代 後光明天皇
後水尾天皇之子
明正天皇之弟

第一百一十七代 後西院天皇
後水尾天皇之子
後光明天皇之弟

第一百一十八代 靈元天皇
後水尾天皇之子
後西院天皇之弟

第百一十代 東山天皇

第百一十代 中御門天皇 東山天皇之子

第百一十代 櫻町天皇

第百一十代 桃園天皇 櫻町天皇之子

第百一十代 後櫻町天皇 櫻町天皇之子 桃園天皇之弟

第百一十代 後桃園天皇 第百一十代 第百一十代

第百一十代 直仁親王

第百一十代 典仁親王

第百一十代 光格天皇

第百一十代 仁孝天皇

第百一十代 孝明天皇

第百一十代 今上

皇位ノ繼承ニ正位ト不正位トノ別アル事
皇位ノ繼承ニ正位ト不正位トノ別アリ、其ノ正

位トイフハ何ゾ、天皇崩ズ皇太子繼テ踐祚ス、是
ヲ正ト為ス、天皇或ハ事故アリテ皇位ヲ皇太子
ニ讓ルモ亦以テ正ト為ス、其ノ或ハ皇太弟或ハ
皇子ノ此ノ如クニシテ踐祚スルモ亦正ナリ、天
皇或ハ儲嗣無キヲ以テ皇族ニ傳フルガ如キハ、
已ムコトヲ得ザルニ出ヅト雖ヘドモ、然レドモ
皇位ヲ繼承スルニ於テハ亦正ナリ或ハ天皇崩
ジテ嗣無シ、時ニ皇子諸王ノ中高徳ノ者アリ、其
ノ者或ハ皇后ノ勸進ニ從ヒ、或ハ群臣ノ勸進ニ
從ヒテ皇位ヲ繼承スルモ亦正ナリ、或ハ天皇崩
ズ時ニ太上天皇仍在スト雖ヘドモ意未、誰ト為
スニ決セズ、群臣乃、皇子諸王ノ中ニ擇ビ以テ勸
進ス、皇子因テ踐祚シ諸王因テ踐祚スルガ如キ

モ亦不正ト為サズ、其ノ不正ト為スハ何ゾヤ天
皇在テ又別ニ踐祚スル者アリ、是ヲ不正ト為ス、
假令太上天皇ノ詔アリテ以テ皇位ヲ繼承スト
イフト雖ヘドモ、然レドモコレヲ正位トハ為ス
ベカラザルナリ

正位

神皇正統記中卷 第三十四代推古天皇ハ云云 癸丑の年即
位大倭の小墾田の宮おまゝもまゝ、わらゝ神功皇后六十餘年
天下を治め給ひしうども、攝政と申す天皇とハ號一たてま
つらざるもや、此御門皇ヲ推古天ハ正位も即給ひけるもこと

不正位

神皇正統記下卷 六月四日年元卯三 東寺もいつせ給ふ後
醍醐天皇ノ隱岐ヨ 都もあも人々もあもあつまりしうば、

威儀をととのへ本の宮小還幸し給ふ、の賞罰のさど
め有し、み、兩院○後伏見天皇花園新帝皇○光嚴天をばあどめ申
給ひし都もあもあつまりしうば、さどと新帝ハ偽主の儀よて
正位○天皇在テ外ニ天皇ヲ稱もいもあもあつまりしうば、改元し
正慶といひしをも本の宮とて元弘と號せらる

皇位繼承一覽表

天皇皇位ヲ繼承スルニ其ノ跡一ナラズ、故ニ部
ヲ分ツコト數種以テコレヲ次下ニ擧グ、而シテ
猶其ノ見ルニ易カラシコトヲ要シ更ニ表ヲ為
ル、第一層ニハ正位不正位ノ別ヲ標シ、第二層ニ
ハ天皇ノ御名ヲ掲ゲ、第三層ニハ其ノ承クル所
ヲ記シ、第四層ニハ繼承ノ年月日ヲ記シ、第五層
ニハ御履歷ヲ記ス 諸王或ハ天皇ノ養子ト為ルナリ
或ハ猶子ト為ルトキハ則チ天

皇ノ子ナレバ當ニ皇子ト稱スベシ而シテ此ノ書猶諸王ト稱スルハ其ノ昭穆ヲ明瞭ナラシメ

正位下

神武天皇	第三層	御父鸕鷀草葺不合尊 崩年不詳	第四層	辛酉歲正月一日	皇太子	皇子
綏靖天皇	第一層	御父神武天皇 丙子歲三月十一日崩	庚辰歲正月八日	皇太子	皇子	
安寧天皇	第二層	御父綏靖天皇 壬子歲五月十日崩	壬子歲七月三日	皇太子	皇子	
懿德天皇	第三層	御父安寧天皇 庚寅歲十二月六日崩	辛卯歲二月四日	皇太子	皇子	
孝昭天皇	第四層	御父懿德天皇 甲子歲九月八日崩	丙寅歲正月九日	皇太子	皇子	
孝安天皇	第五層	御父孝昭天皇 戊子歲八月五日崩	己丑歲正月七日	皇太子	皇子	
孝靈天皇	第六層	御父孝安天皇 庚午歲正月九日崩	辛未歲正月十日	皇太子	皇子	
孝元天皇	第七層	御父孝靈天皇 丙戌歲二月八日崩	丁亥歲正月十日	皇太子	皇子	
開化天皇	第八層	御父孝元天皇 癸未歲九月二日崩	同年十一月十二日	皇太子	皇子	
崇神天皇	第九層	御父開化天皇 癸未歲四月九日崩	甲申歲正月十三日	皇太子	皇子	

垂仁天皇	第十層	御父崇神天皇 辛卯歲十二月五日崩	壬辰歲正月二日	皇太子	皇子
景行天皇	第十一層	御父垂仁天皇 庚午歲七月十四日崩	辛未歲七月十一日	皇太子	皇子
成務天皇	第十二層	御父景行天皇 庚午歲十一月七日崩	辛未歲正月五日	皇太子	皇子
仲哀天皇	第十三層	御叔父成務天皇 庚午歲六月十一日崩	壬申歲正月十一日	皇太子	諸王
應神天皇	第十四層	御父仲哀天皇 庚辰歲二月六日崩	同年同月同日	日嗣皇太子	皇子
仁德天皇	第十五層	御父應神天皇 庚午歲二月十五日崩	癸酉歲正月三日	皇太子	皇子
履仲天皇	第十六層	御父仁德天皇 己亥歲正月十六日崩	庚子歲二月一日	皇太子	皇子
反正天皇	第十七層	御兄履仲天皇 乙巳歲三月十五日崩	丙午歲正月二日	皇子	皇子
允恭天皇	第十八層	御兄反正天皇 庚戌歲正月廿三日崩	壬子歲十二月十日	皇子	皇子
安康天皇	第十九層	御父允恭天皇 癸巳歲正月十四日崩	同年十二月十日	皇子	皇子
雄略天皇	第二十層	御兄安康天皇 丙申歲八月九日崩	同年十一月十三日	皇子	皇子
清寧天皇	第二十一層	御父雄略天皇 己未歲八月七日崩	庚申歲正月十五日	皇太子	皇子
顯宗天皇	第二十二層	御再從弟清寧天皇 甲子歲正月十六日崩	乙丑歲正月一日	皇子	諸王

桓武天皇	御父元仁天皇天應元年四月三日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
平城天皇	御父桓武天皇延曆廿五年三月十七日崩	同年同月十八日	皇太子	親王	皇子
嵯峨天皇	御兄平城天皇大同四年四月一日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
淳和天皇	御兄嵯峨天皇弘仁十四年四月十七日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
仁明天皇	御叔淳和天皇天長十年二月廿八日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
文德天皇	御父仁明天皇嘉祥三年三月廿一日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
清和天皇	御父文德天皇天安二年八月廿七日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
陽成天皇	御父清和天皇貞觀十八年十一月廿九日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
光孝天皇	御姪孫陽成天皇元慶八年二月四日遜位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
宇多天皇	御父光孝天皇仁和三年八月廿六日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
醍醐天皇	御父宇多天皇寬平九年七月三日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
朱雀天皇	御父醍醐天皇延長八年九月廿二日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
村上天皇	御兄朱雀天皇天慶九年四月廿日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子

冷泉天皇	御父村上天皇康保四年五月廿五日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
圓融天皇	御兄冷泉天皇安和二年八月十三日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
花山天皇	御叔父圓融天皇永觀二年八月廿七日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
一條天皇	御從兄花山天皇寬和二年六月廿三日遜位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
三條天皇	御從弟一條天皇寬弘八年六月十三日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
後一條天皇	御從伯父三條天皇長和五年正月二十九日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
後朱雀天皇	御兄後一條天皇長元九年四月十七日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
後冷泉天皇	御父後朱雀天皇寬德二年正月十六日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
後三條天皇	御兄後冷泉天皇治曆四年四月十九日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
白河天皇	御父後三條天皇延久四年十二月八日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
堀河天皇	御父白河天皇應德三年十一月廿六日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
鳥羽天皇	御父堀河天皇嘉祿二年七月十九日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
崇德天皇	御父鳥羽天皇保安四年正月廿八日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子

近衛天皇	後白河天皇	二條天皇	六條天皇	高倉天皇	安徳天皇	後鳥羽天皇	土御門天皇	順徳天皇	仲恭天皇	後堀河天皇	四條天皇	後嵯峨天皇
御兄崇徳天皇永治元年十二月七日讓位	御弟近衛天皇久壽二年七月廿三日崩	御父後白河天皇保元三年八月十一日讓位	御父二條天皇永萬元六月廿五日讓位	御姪六條天皇仁安三年二月十九日讓位	御父高倉天皇治承四年二月廿一日讓位	○御祖父後白河天皇ノ詔ニ依テ壽永二年八月廿日踐祚	御父後鳥羽天皇建久九年正月十一日讓位	御兄土御門天皇承元四年十一月廿五日讓位	御父順徳天皇承久三年四月廿日讓位	御從姪仲恭天皇承久三年七月九日遜位	御父後堀河天皇貞永元年十月四日讓位	御再從兄四條天皇仁治三年正月九日崩
同年同月同日	同年同月廿四日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	壽永四年三月廿五日正位ニ歸ス	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月廿日
皇太子		皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	神皇正統記 後鳥羽天皇 御弟	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子
親王	親王	親王	親王	親王	親王		親王	親王	親王	親王	親王	親王
皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子
										諸王		

初即位
後即位
正位下

不正位

後深草天皇	龜山天皇	後宇多天皇	伏見天皇	後伏見天皇	後二條天皇	花園天皇	後醍醐天皇	後村上天皇	後龜山天皇	光嚴天皇	光明天皇	崇光天皇
御父後嵯峨天皇寛元四年正月廿九日讓位	御兄後深草天皇正元元年十一月廿六日讓位	御父龜山天皇文永十一年正月廿六日讓位	御從弟後宇多天皇弘安十年十月廿一日讓位	御父伏見天皇永仁六年七月廿二日讓位	御再從兄後伏見天皇正安三年正月廿一日讓位	御再從弟後二條天皇徳治三年八月廿五日崩	御再從兄花園天皇文保二年二月廿六日讓位	御父後醍醐天皇延元四年八月十五日讓位	御父後村上天皇正平廿三年三月十一日崩	○御叔父花園天皇ノ詔アリ	○御兄光嚴天皇元弘三年十月七日遜位	○御叔父光明天皇正平三年四月廿七日讓位
同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	延元元年三月十五日	同年同月同日	同年同月同日
皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子
親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王
皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子

皇位繼承篇 卷之一

後光嚴天皇	後圓融天皇	後小松天皇	稱光天皇	後花園天皇	後土御門天皇	後柏原天皇	後奈良天皇	正親町天皇	後陽成天皇	後水尾天皇	明正天皇
御兄崇光天皇正平六年 十一月七日遜位	御父後光嚴天皇建德二年 三月廿三日讓位	御父後圓融天皇弘和二年 四月十一日讓位	御父後小松天皇應永十九年 八月廿九日讓位	御族弟稱光天皇正長元年 七月廿日崩	御父後花園天皇寬正五年 七月十九日讓位	御父後土御門天皇明應九年 九月廿八日崩	御父後柏原天皇大永六年 四月七日崩	御父後奈良天皇弘治三年 九月五日崩	御祖父正親町天皇天正十四 年十一月七日讓位	御祖父後陽成天皇慶長十六 年三月廿七日讓位	御父後水尾天皇寬永六年十 一月八日讓位
正平七年 八月十七日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月廿八日	同年同月同日	同年同月廿九日	同年同月廿七日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日
親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王
皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇女
											皇嫡孫 諸王

初不卷
後卷
正卷
同下

後光明天皇	後西院天皇	靈元天皇	東山天皇	中御門天皇	櫻町天皇	桃園天皇	後櫻町天皇	後桃園天皇	光格天皇	仁孝天皇	孝明天皇	今上
御姉明正天皇寬永廿年十月 三日讓位	御兄後光明天皇承應三年九 月廿日崩	御兄後西院天皇寬文三年正 月廿六日讓位	御父靈元天皇貞享四年三月 廿一日讓位	御父東山天皇寶永六年六月 廿一日讓位	御父中御門天皇享保廿年三 月廿一日讓位	御父櫻町天皇延享四年五月 二日讓位	御弟桃園天皇寶曆十二年七 月廿一日崩	御叔父後櫻町天皇明和七年 十一月廿四日讓位	御再從孫後桃園天皇安永八 年十一月九日崩	御父光格天皇文化十四年三 月廿二日讓位	御父仁孝天皇弘化三年二月 六日崩	御父孝明天皇慶應二年十二 月廿五日崩
同年同月同日	同年十一月廿 八日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月廿七 日	同年同月同日	同年同月廿五 日	同年同月同日	同年同月十三 日	慶應三年正月 九日
皇太子	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王
皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子
												諸王

皇位繼承篇 卷之一

皇位繼承篇卷一終

皇位繼承篇卷二

議官 福羽美静 檢閲

少書記官 横山由清

編纂

大書記生 黒川真頼

皇太子

皇太子ノ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子ハ日嗣皇子ナリ、大御業ヲ嗣テ之ヲ知ル
ノ稱ナリ、故ニ皇太子ノ皇位ヲ繼承スルヲ以テ
恒典ト為ス、皇太弟モ亦日嗣皇子ナリ、唯文字ニ
由テ以テ子ト弟トヲ分ツノ之、比都岐乃美古ト
稱スルニ至テハ一ナリ、但皇太弟ノ事ハ
上古日嗣皇子ト稱スルト中古以來日嗣皇子ト
稱スルト異ナル所アリ、古事記ニ景行天皇ノ御

子ヲ録シテ云ク并八十王之中若帶日子命與倭
 建命亦五百木之入日子命此三王負太子之名自
 其餘七十七王者悉別賜國國之國造亦和氣及稻
 置縣主也トアリ是景行天皇ノ三皇子ヲ以テ日
 嗣皇子ト為スニテ中古以來ト異ナル所ナリ
 神武天皇 綏靖天皇 安寧天皇 懿德天皇
 孝昭天皇 孝安天皇 孝靈天皇 孝元天皇
 開化天皇 崇神天皇 垂仁天皇 景行天皇
 成務天皇 仲哀天皇 應神天皇 履仲天皇
 反正天皇 清寧天皇 仁賢天皇 武烈天皇
 安閑天皇 敏達天皇 天智天皇 弘文天皇
 文武天皇 聖武天皇 孝謙天皇 淳仁天皇
 光仁天皇 桓武天皇 平城天皇 仁明天皇

文德天皇 清和天皇 陽成天皇 宇多天皇
 醍醐天皇 朱雀天皇 冷泉天皇 花山天皇
 一條天皇 三條天皇 後一條天皇 後冷泉天皇
 白河天皇 堀河天皇 鳥羽天皇 崇德天皇
 二條天皇 六條天皇 高倉天皇 安徳天皇
 後鳥羽天皇 土御門天皇 仲恭天皇 四條天皇
 後深草天皇 後宇多天皇 伏見天皇 後伏見天皇
 後二條天皇 花園天皇 後醍醐天皇 後村上天皇
 後龜山天皇 光嚴天皇 崇光天皇 後小松天皇
 後水尾天皇 後光明天皇 東山天皇 中御門天皇
 櫻町天皇 桃園天皇 後桃園天皇 仁孝天皇
 孝明天皇

○神武天皇

神武天皇紀條首 天皇云 年十五立為太子云 辛酉年春正

月庚辰朔天皇即帝位於橿原宮

○綏靖天皇

神武天皇紀 四十有二年春正月甲寅立皇子神濤名川耳尊

○綏靖天皇為皇太子

綏靖天皇紀 元年春正月巳卯神濤名川耳尊即天皇位

○安寧天皇

綏靖天皇紀 廿五年春正月戊子立磯城津彥玉手看尊○安寧天皇

皇太子

安寧天皇紀條首 三十三年○綏靖天皇 七月乙丑太子即天

皇位

○懿德天皇

安寧天皇紀 十一年春正月壬戌朔立大日本彥耜友尊○懿德天皇

皇太子也

懿德天皇紀 元年春二月壬子皇太子即天皇位

○孝昭天皇

懿德天皇紀 二十二年春二月戊子立觀松彥香殖稻尊○孝昭天皇

皇太子年十八

孝昭天皇紀 元年春正月甲子皇太子即天皇位

○孝安天皇

孝昭天皇紀 六十八年春正月庚子立日本足彥國押人尊○孝安天皇

皇太子年二十

孝安天皇紀 元年春正月辛卯皇太子即天皇位

○孝靈天皇

孝安天皇紀 七十六年春正月癸酉立大日本根子彥太瓊尊

○孝靈天皇為皇太子年二十六

孝靈天皇紀 元年春正月癸卯太子即天皇位

○孝元天皇

孝靈天皇紀 三十六年春正月己亥朔立彥國牽尊皇○孝元天皇

為皇太子

孝元天皇紀 元年春正月甲申太子即天皇位

○開化天皇

孝元天皇紀 二十二年春正月壬午立稚日本根子彥大日尊○開化天皇

尊○開化天皇為皇太子年十六

開化天皇紀 五十七年○孝元天皇冬十月壬午太子即

天皇位

○崇神天皇

開化天皇紀 二十八年春正月丁酉立御間城入彥尊○崇神天皇

為皇太子年十九

崇神天皇紀 元年春正月甲午皇太子即天皇位

○無仁天皇

崇神天皇紀 四十八年四月丙寅立活目尊○無仁天皇為皇太

子

無仁天皇紀 元年春正月戊寅皇太子即天皇位

○景行天皇

無仁天皇紀 三十七年春正月戊寅朔立大足彥尊○景行天皇

為皇太子

景行天皇紀 元年秋七月己卯太子即天皇位

○成務天皇

景行天皇紀 五十一年秋八月壬子立稚足彥尊○成務天皇

皇太子

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

○仲哀天皇 成務天皇紀 四十八年春三月庚辰朔立甥足仲彥尊タケノヲウヂノミコ天皇仲哀

為皇太子 仲哀天皇紀 元年春正月庚子太子即天皇位

○應神天皇 神功皇后紀 攝政三年春正月戊子立譽田別皇子ホムダノミコ皇應神

為皇太子 應神天皇紀 元年春正月丁亥朔皇太子即位應神

中ニ在テ巳ニ皇位ヲ継承セリ故ニ日嗣皇子ノ神功皇后ノ攝政三年ニ承

皇太子ト為リ而シテ後皇位ヲ継承スト記セルガ如キハ所

仁德天皇紀 三十一年春正月丁卯立大兄オホニ去來イカガ德別尊トクノミコ皇履

履仲天皇紀 元年春二月壬午朔皇太子即位於磐余イハヒ稚櫻宮ワカサクラノミヤ

○反正天皇 履仲天皇紀 二年春正月巳酉立瑞齒ミズハ別皇子ワカサクラノミコ皇反正

君 反正天皇紀 元年春正月戊寅儲君即天皇位

○清寧天皇 雄略天皇紀 二十二年春正月巳酉朔以白髮皇子シラカノミコ皇清寧

為皇太子 清寧天皇紀 二十三年〇雄略冬十月壬申大伴室

屋大連率臣連等奉璽於皇太子 元年春正月壬子命有司設壇場於磐余イハヒ甕栗ウヅリ陟天皇位

○仁賢天皇

清寧天皇紀 三年夏四月辛卯以億計王〇仁賢天為皇太子

仁賢天皇紀 元年春正月乙酉皇太子於石上廣高宮即天皇

位〇武烈天皇

仁賢天皇紀 七年春正月己酉立小泊瀨稚鷦鷯尊〇武烈天

為皇太子

武烈天皇紀條首 十一年〇仁賢天皇ノ十二月云於是太子

命有司設壇場泊瀨列城陟天皇位

〇安閑天皇

繼體天皇紀 七年十二月戊子詔曰云懿哉麻呂古〇安閑

示朕心於八方盛哉勾大兄〇安閑天光吾風於萬國云定

汝之力宜處春宮助朕施仁翼吾補闕

安閑天皇紀條首 二十五年〇繼體天皇ノ春二月丁未男大迹

天皇〇繼體天立大兄〇天即日男大迹天皇崩

〇敏達天皇

欽明天皇紀 十五年春正月甲午立皇子淳中倉太珠敷尊〇

達天皇為皇太子

敏達天皇紀 元年夏四月甲戌皇太子即天皇位

〇天智天皇

舒明天皇紀 十三年冬十月丁酉天皇崩于百濟宮丙午殯於

宮北是謂百濟大殯是時東宮開別皇子〇天智天年十六而誅

之〇東宮トアルハ即日嗣皇子ヲイヘ

皇極天皇紀 四年六月庚戌讓位於輕皇子〇孝德天立中大

兄〇天智天為皇太子

天智天皇紀條首 七年〇齊明天皇七月丁巳崩〇齊明天皇ノ

皇太子素服稱制〇天智天皇ノ皇位

〇弘文天皇

扶桑略記卷五 天智天皇十年辛未十月云立大友太政大臣〇弘文天皇為皇太子十二月三日天皇崩同月五日皇太子即為帝位

水鏡上卷 天智天皇云十年云十月云大友

之政大臣ハ東宮ヨリ立給云

同書 天武天皇云天智天皇十二月云三月云世世給云

五月云同日云大友皇子位を云つぎ給云ひ云あ云る云と云の

ま云り云ま云る云云

〇文武天皇

持統天皇紀 十一年八月乙丑朔天皇定策禁中禪天皇位於皇太子

文武天皇紀首條 高カ天タ原ハ廣ク野ノ姫ノ天皇〇持統天十一イ年立為皇

太子八月甲子朔受禪即位

〇聖武天皇

元明天皇紀 和銅七年六月庚辰皇太子〇聖武天加元服

元正天皇紀 神龜元年〇神龜元年八月即二月甲午天皇禪位

於皇太子

聖武天皇紀 天タ壘レ國ノ押シ開キ豐ト櫻サ彦ノ天皇〇聖武天云云二月〇神

龜元年ニ甲午受禪即位於大極殿

扶桑略記卷六 元明天皇云和銅七年六月廿八日庚辰以

豐櫻彦親王立皇太子于時年十四歲令加元服是聖武天皇也

同書 聖武天皇云養老八年甲子二月四日生年廿五於大

〇孝謙天皇

極殿即位

聖武天皇紀 天平十年春正月壬午立阿倍内親王〇孝謙天皇ヲイフ為皇太子

同書 天平感寶元年秋七月甲午皇太子受禪即位於大極殿

〇淳仁天皇

孝謙天皇紀 天平寶字元年夏四月辛巳云迎大炊王仁天

皇ヲ立為皇太子

淳仁天皇紀 天平寶字二年八月庚子朔高野天皇〇孝謙天皇ヲイフ禪位於皇太子

〇光仁天皇

稱徳天皇紀 神護景雲四年八月癸巳云天皇〇稱徳天皇ナリ本書ニ

ハ高野崩于西宮寢殿春秋五十三左大臣從一位藤原朝臣永手右大臣正二位吉備朝臣真備云等定策禁中立諱白壁王

天皇ニシテ即光仁為皇太子

帝王編年記卷十二 稱徳天皇云皇太子白壁天智天皇孫

施基皇子男元大納言景雲四年八月立年六十二同日踐祚

水鏡上卷 光仁天皇云云神護景雲四年八月四日百川

ヤガツツのさをもよほして白壁王を迎へてまゝに

帝と定めありきは帝の位よつきたまふ事

ひとより百川のけのりなるなり廿一日は

道鏡を中野の園へ流すつづきの

ニハ光仁天皇皇太子ニ立ツトノミニテ皇位ヲ繼承セシ〇稱徳天皇紀神護景雲四年八月癸巳ノ條

ナシ帝王編年記水鏡ニ拠テ以テ天皇ノ皇太子ニ立テ即日

皇位ヲ繼承セシ〇稱徳天皇紀神護景雲四年八月癸巳ノ條

〇桓武天皇 光仁天皇紀 寶龜四年正月戊寅立中務卿四品諱王〇山部親

即桓武天皇為皇太子 同書 天應元年夏四月辛卯云是日皇太子受禪即位

アルハ踐祚ヲ
イヘルナリ

○平城天皇

桓武天皇紀 延曆四年十一月丁巳詔立安殿親王○平城天皇ヲイフ
為皇太子

桓武天皇紀 大同元年三月辛巳云天皇○桓武天皇ヲイフ崩於正

寢春秋七十皇太子哀踰擗踊云而遷於東廂次壘并劔櫃近

衛將監從五位下紀朝臣繩麻呂云相副從之

○仁明天皇

日本紀略 弘仁十四年夏四月壬寅皇太弟○淳和天皇ヲイフ出自東

宮遷御内裏云○淳和天皇ノ已酉天皇受讓并定皇太子正

良親王ニテ即事告于柏原山陵

仁明天皇紀條首天長十年春二月乙酉皇帝○淳和天皇ヲイフ於淳和

院讓位于皇太子

○文德天皇

仁明天皇紀 承和九年八月乙丑云是日立皇太子○道康

テ即文德天皇ナリ同書 嘉祥三年三月巳亥云帝崩於清凉殿○仁明天皇ノ

時春秋卅一云左右近衛少將各一人率近衛等陣於皇太子

直曹參議從四位上左兵衛督藤原朝臣助云等賈天子神璽

寶劔符節鈴等奉於皇太子○文德天皇ノ皇位ヲ

○清和天皇

清和天皇紀條首嘉祥三年十一月二十五日立為皇太子云

○惟仁親王ニテ天安二年八月廿七日文德天皇崩冷然院親

成殿從五位上守左近衛少將兼美濃介良岑清風云各率將

監將曹近衛等陣於皇太子直曹于時春宮帶刀舍人解陣退散

大納言正三位兼行右近衛大將民部卿陸奥出羽按察使安倍

皇立繪本

朝臣安仁云奉天子神璽寶劔節符鈴印等於皇太子直曹清
承和天皇ノ皇位ヲ継

○陽成天皇

陽成天皇紀條首貞觀十一年二月一日天皇立為皇太子誕育

三月矣十八年十一月二十九日九歲是日出自深殿院御鳳輦

歸東宮百官供奉如常○陽成天皇ノ皇位ヲ

○宇多天皇

光孝天皇紀仁和三年八月廿六日天皇聖體乖豫是日立第

七皇子諱○定省親王ニシテ為皇太子

大鏡卷一即宇多天皇ナリテ五十九代つぎはみうと亭子のみうと云○宇多

皇ヲ仁和三年戊申八月廿六日東宮よとせ給ひて同ト

即位しつとせ給ふ所歳廿三云

○醍醐天皇

日本紀略醍醐天皇云寬平五年四月十日詔○宇多天皇

遣使於諸陵告以親王可為皇太子之由同十四日策立為皇太

子○即醍醐親王ニシテ云九年七月三日云午三刻太上天

皇○宇多天皇讓天祚于紫宸殿傳國詔命

○朱雀天皇

日本紀略朱雀院云延長三年十月廿一日為皇太子○年三

明親王ニテ即八年九月廿二日先帝○醍醐天皇逃位讓皇太子

八年○宇多天皇朱雀天皇ナリ

○冷泉天皇

日本紀略冷泉院云天曆四年七月廿三日於外祖右大臣

第立為皇太子云憲平親王ニテ○冷泉天皇康保四年五月廿五日已

時天皇○村上崩於清涼殿十子討奉璽劔於皇太子直曹

襲芳舍

○花山天皇

日本紀略 花山院 云 安和二年八月十三日為皇太子 年二
真親王ニテ即永觀二年八月廿七日先皇 皇ヲ圓融ヲ天讓位於今
花山天皇ナリ 帝先帝廿六今帝十七 今
帝ハ即花山天皇ナリ

○一條天皇

日本紀略 一條院 云 永觀二年八月廿七日立為皇太子 五年
即一條天皇ナリ 寬和二年六月廿三日花山天皇偷出禁中奉
劍璽於新皇 一年七〇新皇ハ即外祖右大臣ヲ兼家參入令固禁
内警備翌日行先帝讓位之禮

○三條天皇

日本紀略 三條院 云 寬和二年七月十六日於外祖攝政右
大臣南院第加元服此日立為皇太子 年十一〇三條天皇ナリ 寬
弘八年六月十三日一條院天皇逃位於新皇 條天皇ハ即三

○後一條天皇

日本紀略 後一條院 云 寬弘八年六月十三日一條天皇讓
位於三條天皇策命為皇太子 年四〇敦成親王ニシ長和五年
正月廿九日未射三條院天皇逃位讓皇太子于時皇太子春秋
九歲

○後冷泉天皇

扶桑略記卷廿八 後朱雀天皇 云 長曆元年八月十七日以
親仁親王 皇ヲ後冷泉天 立皇太子年十三歲
同書 後冷泉天皇 云 寬德二年乙酉正月十六日受禪年廿
一歲

○白河天皇

扶桑略記卷三十 後三條天皇 云 延久元年四月廿日以今
上第一皇子貞仁親王 皇ヲ白河天 立皇太子

同書 白河天皇 云 延久四年壬子十二月八日踐祚年二十

歲

○堀河天皇

百練鈔 白河天皇 云 應德三年十一月廿六日天皇讓位於

善仁親王 皇 堀河天皇 先為皇太子由載宣命

○鳥羽天皇

百練鈔 鳥羽天皇 云 康和五年八月十七日為皇太子 仁 宗

王 天皇 嘉承二年七月十九日踐祚 五

○崇德天皇

百練鈔 鳥羽天皇 云 保安四年正月廿八日天皇讓位於第

一親王 顯仁 皇 崇德天皇 先為皇太子之由載宣命

○二條天皇

百練鈔 二條天皇 云 久壽二年九月廿三日為皇太子 仁 守

條 天皇 保元三年八月十一日受禪 十六

○六條天皇

百練鈔 二條天皇 云 永萬元年六月十七日 〇 版本廿七日

於 閑白 第 定 立 太子 事 云 順仁親王 廿五日讓位於

第二親王 順仁 二歲 先 雖 可有 立 坊 主 上 皇 〇 二條天皇 依 御 不 豫 危

急 俄 有 此 儀 二 歲 例 今 度 始 之 〇 六條 一天 皇 讓 位 帝 王 編 年 記 等

見 然 ラ バ 百練鈔 〇 高倉天皇

百練鈔 高倉天皇 云 仁安元年十月十日為皇太子 〇 憲 仁

天皇 高倉 同 三年 二月 十九 日 受 禪 八 歲

○安徳天皇

百練鈔 安徳天皇 云 治承二年十二月十五日為皇太子 〇

仁親王 同 四年 二月 廿 一 日 受 禪 三

○後鳥羽天皇

皇年代略記 後鳥羽院諱尊成云壽永二年卯癸八月廿日子
踐祚於閑院 依舊主皇○安徳天 赴西海被下法皇天○後白河
詔命先為皇太子 後○尊成親王ニテ即神鏡劔璽獨不歸坐後
鳥羽天皇ハ後白河法皇ノ詔命アリト雖ルベシ初ハ
正位ニ非ズ委シクハ正位不正位ノリト條見ルベシハ

○土御門天皇

皇年代略記 土御門院諱為仁云建久九年正月十一日酉巳

受禪 四於閑院 兼日先立親王立坊事今日先為皇太子 〇為

王ニテ即土御門天皇ナリ 〇百練鈔ニ後鳥羽院云建久九年正月十一日酉巳
年正月十一日酉巳 讓位於第一皇子無親王宣旨立坊事先是
渡御閑院之御見物之車下儀固親如常改閑白為攝政
シテ皇位ヲ繼承セシナリテ而馬無先規事欵トアルハ粗漏ナ

○仲恭天皇

百練鈔 佐渡院 云 建保六年十一月廿六日被行立太子節

會 〇懷成親王ニテ承久三年四月廿日今日有御讓位事申刺
内大臣以下參入 次殿 皇太子 懷成 御閑院被渡劔璽

○四條天皇

百練鈔 堀河天皇 云 寬喜三年十月廿八日今上第一親王

為皇太子 秀仁 〇秀仁親王ハ 六年十月廿二日

同書 四條天皇 云 貞永元年十月四日於閑院受禪 二歲

○後深草皇

百練鈔 後嵯峨院 云 寬元元年八月十日今上第一皇子 久

仁有立太子事 後深草天皇ナリ 寬元四年正月廿九日受禪

同書 後院上 皇 〇後深草天皇 寬元四年正月廿九日受禪

○後宇多天皇

皇年代略記 後宇多院 云 文永五年八月廿五日立太子 〇

仁親王ニテ即後 宇多天皇ナリ

踐祚部類鈔 後宇多院文永十一年正月廿六日受禪

○伏見天皇

皇年代略記 伏見天皇 云 建治元年十一月五日立太子 〇

仁親王ニテ即 伏見天皇ナリ

踐祚部類鈔 伏見院弘安十年十月廿一日受禪

○後伏見天皇

皇年代略記 後伏見院 云 正應二年四月廿五日立太子 二

〇胤仁親王ニテ即 後伏見天皇ナリ

踐祚部類鈔 後伏見院永仁六年七月廿二日受禪

○後二條天皇

皇年代略記 後二條院 云 永仁六年八月十日立太子 〇 邦

王ニテ即後二 條天皇ナリ

踐祚部類鈔 後二條院正安三年正月廿一日受禪

○花園天皇

皇年代略記 華園院 云 正安三年八月廿四日立太子 〇 富

王ニテ即花 園天皇ナリ

踐祚部類鈔 花園院 云 德治三年八月廿六日受禪 〇 德治

即延慶元 年ナリ

○後醍醐天皇

皇年代略記 後醍醐院 云 德治三年九月十九日立太子 〇

治親王ニテ即後 醍醐天皇ナリ

踐祚部類鈔 後醍醐院文保二年二月廿六日踐祚

○後村上天皇

神皇正統記下卷 さきもやむづきありはとく陸奥に

〇義良親王ニテ即 後村上天皇ナリ 又東へ向へて免後つぎ定め

あやま、左少将顯位朝臣中將了格、後三位叙

一陸奥の如海守將軍を遣つた云々云云祝玉ハ
 儲君の如くせ給ふべき旨申さるる世給ひ云々云云ニワ
 能舟おろし風を吹き東西吹まけらるす急の世ハ
 めづろつたるを伝ひき儲君の如く定らせ
 給ひし例あり都の御住居もつとのおおるし
 皇を神のともを申させ給ひらるなるべし
 芳野つろし世海りし御目の前りし位を継せ
 給ひしはつとのおもひありせられたるたふとくも
 傳ふるな

南方紀傳上卷 延元四年八月九日南帝
〇後醍醐天皇 御年十二 義良親王
 同十五日義良親王ハ即後村上天皇ナリ 踐祚左大臣經元公
 能事ヲ遷坐之種の神器を授らせ給ふ

〇後龜山天皇

南方紀傳上卷 南朝正平廿四年北朝應安二年
云云三月十日南帝 〇後村上天皇 崩御云云
正平廿四年三月トア 〇正平廿四年トア

事記ニ正平廿三年トア 後醍醐院ヲ遷勅ヲ御治世の中
 ルヲ以テ是トスベシ

御位を譲らせ給ふべし云々同月云云南帝のち子
 照成親王 〇後龜山天皇 受禪 〇天皇ノ皇位ヲ継承セシト

ニテ廿三年四月 後龜山院 院近左大臣經元公ハ勝子嘉吉門
 上九日ヲ是トス 後龜山院 院近左大臣經元公ハ勝子嘉吉門
 天ノ皇ノ譲ヲ受ケシハ後龜山天皇ナリト此ノ如ク記シ
 テ混ルコト無キヲ大日本史卷七十一ニ載後村上ノ皇ノ譲
 フ受シ者ハ長慶天皇ト為シテ曰久諸書不載受禪即位然後
 村上帝崩承統者天皇也故書于此其餘例當書而不書者南遷
 以後載籍不備無所
 考證トアルハ失考

細々要記卷六 應安二年 南方正平二年 南方正平二年 南方正平二年
 フ御不豫タリト云云三月十一日南山ノ帝崩御壽四十三ト
 云云同十三日如意輪寺ニ葬リ奉ルト云云先帝後醍醐御遺
 勅ニヨツテ御在世ノ中御讓位ナクマタ御剃髮ナシト云云

武德編年集成卷四十八 慶長五年十二月十二日當今陽成後
 天皇ヲ第二ノ皇子政仁親王儲王ニ定メラルル御母近衛殿信
 尹公ノ女也當今御愛君ニテ最初皇太子タルベキ所菊亭右
 大臣晴季公德善院玄以ト胥議シ太閤秀吉へ告ゲ第一ノ皇
 子良仁親王母ハ中山大納ヲ皇太子ニ立ラル元ヨリ此一獻
 慮ニ應ゼザル故頃日近臣ヲ以テ神君〇家康へ密詔アリ神
 君曰凡子ヲ知ル父ニ如ハナシ臣モ亦男子多シト雖ドモ
 繼嗣タル臣ガ心ニ在ルノ第一第二ノ皇子ノ内皇太子
 タラント孰レ成トモ獻慮ニ任セラルベシ殊ニ政仁親王母
 君貴キ上ハ猶更然ルベシト奏セラレケレバ大ニ獻感有テ
 此御沙汰ニ及ブト云云
 皇胤紹運録 後水尾院諱政仁云慶長十六年三月廿七日
 受禪十六

國史波井厚著卷一下 慶長五年十二月皇子政仁為皇太子云
 云 慶長十六年三月二十七日天皇〇後陽成天傳位于皇太子

○後光明天皇

寬永廿年天皇踐祚記 御讓位宣命〇明正天皇ノ皇位ヲ後
 リ現神止大八洲國所知倭根子天皇我詔旨止良万勅命乎親王
 諸臣百官人等公民衆聞食止宣朕以薄德氏天日嗣乎承傳賜
 倍事漸送年序利愚昧之身波此位尔不可堪止歎畏賜天比令避
 皇位賜比南所念行天那隨法尔可有政止為天紹仁親王乎
 皇太子止定賜天此日嗣乎授賜布衆諸此状乎悟氏清直乃心
 持氏皇太子乎輔導岐仕奉氏天下乎平久令有與但攝政藤原
 朝臣波朝之重臣利奈見其誠心尔幼主乎寄託倍志都然則皇太子
 乃未親萬機之政間保輔幼主天攝行政事古止一如忠仁公故
 事世天下毛教訓直天之各已祖乃門乎不滅須弥高尔仕奉利欲

繼止思慎天無貳心天之仕奉倍之詔布天皇我敕命乎眾聞食止

宣寬永廿年十月三日後光明天皇ナリ○紹仁親王ハ即

後淨明珠院攝政記寬永廿年十月三日御讓位云敕符云

云今日避位○明正天皇ノ傳皇太子後○紹仁親王ニテ即當此

際會疑驚物聽仍為警固彼國差件人賚木邦發遣國宜承知依

例施行敕到奉行

○東山天皇

皇胤紹運錄東山院諱朝仁云天和三年二月九日立太子

九歲云貞享四年三月廿一日受禪

野史卷十四東山天皇諱朝仁靈元帝第四子也云延寶三

年九月三日生稱五宮新上西門院子養之天和二年三月為儲

君○儲君ハ中古ニ所謂ル皇太子ノ條下ニ辨ズ六月徙居東宮

新殿十二月始讀書為親王三年二月立為皇太子云貞享四

年正月移禁中尋冠三月二十一日皇太子受禪

○中御門天皇

皇胤紹運錄中御門院諱慶仁云寶永五年二月十六日立

太子八歲同六年六月廿一日受禪九歲

○櫻町天皇

皇胤紹運錄櫻町院諱昭仁云享保十三年六月十一日立

太子云同廿年三月廿一日受禪

○桃園天皇

皇胤紹運錄桃園院諱遐仁云延享四年三月十六日立太

子同年五月二日受禪

○後桃園天皇

皇胤紹運錄後桃園院諱英仁云明和五年二月十九日立

太子十一歲同七年十一月廿四日受禪十三

○仁孝天皇

皇統御譜 今上皇帝御諱惠仁云云 ○仁孝天皇文化六年三月廿四日立皇太子十歲云云 同十四年三月廿二日御受禪

○孝明天皇

皇統御譜 今上天皇御諱統仁云云 ○孝明天皇天保十一年三月十四日立皇太子十歲云云 弘化三年二月十三日御踐祚十歲

十三朝紀聞卷七 今上天皇諱統仁仁孝帝第四子也云云 天保十一年為皇太子至是繼位時年十六

皇太子皇位ヲ繼承シテ後仍天皇ト稱セザリシ事

應神天皇 天智天皇 光仁天皇 文德天皇

○應神天皇

神功皇后紀 三年春正月戊子立譽田別皇子為皇太子 ○譽田別皇子

皇子ハ即應神天皇ナリ此ニ皇太子トアルハ先帝仲哀天皇ノ皇太子ト為スヲイフ ○仲哀天皇崩ジテ後ハ譽田別皇子然レドモ天皇當時母后ニ事ハ敢テ親ラセズ仍皇太子ト稱ス母后制ヲ稱スルコトハ十九年ニシテ崩ス皇太子譽田別皇子乃チ踐祚ス時ニ年七十一歳ナリ

○天智天皇

天智天皇紀 七年 ○齊明天皇七月丁巳崩 ○齊明天皇太子 ○天智天皇素服稱制太子齊明天皇崩ジテ後天智天皇仍皇

○光仁天皇

至テ始テ即位ス 稱德天皇紀 神護景雲四年八月癸巳天皇崩于西宮寢殿春

秋五十三左大臣從一位藤原朝臣永手右大臣正二位吉備朝臣真備云云 等定策禁中立諱皇光仁天皇為皇太子左大臣從一位藤原朝臣永手受遺宣 ○稱德天皇曰今詔久事平爾有依天諸臣等議 天白壁王波諸王乃中尔年齒毛長奈又先帝乃切

毛在故太子止定天奏波奏流麻尔麻宣給布勅止久宣天〇光仁

諸王ヨリ太子トナリテ皇位ヲ繼承セシナリテ

光仁天皇紀 寶龜元年八月癸巳高野天皇〇稱德天崩群臣

受遺詔即日立諱〇光仁天為皇太子寶龜元年冬十月巳丑朔

即天皇位於大極殿〇寶龜元年八月天皇ト稱德同年十月ニ至テ

始テ天皇ト稱ス 〇文德天皇

文德天皇紀 嘉祥三年三月巳亥仁明皇帝崩於清涼殿于時

皇太子〇文德天下殿御宜陽殿東庭倚廬左右大臣率諸卿及

少納言左右近衛少將等獻天子神璽寶劍符節鈴印等〇皇位

ナリ須吏駕輦車移御東宮雅院陣列之儀一同行幸但無警蹕

云乙巳是日嵯峨山陵暴風雷雨樹木倒仆遣中納言從三位

安陪朝臣安仁就加寮視公卿奏言施事天下猶稱令旨在於視

聽有所疑請稟天旨改令代勅未之許焉〇文德天皇皇位ハ繼

太子ト稱シテ天皇ト稱セス故テ夏四月巳酉公卿上啓

曰云遺制云皇太子可於柩前即皇帝位一依周漢故事云

謹奉啓以勸進令曰雖有遺詔既踰旬月况亦陵土未乾不忍即

正不聽云庚戌公卿重上啓曰臣等先已上啓具陳勸進之誠

而殿下至孝為性不忍情割久曠萬機經引數月雖云禮制亦有

權時請擇吉辰早正其位以順兆人之望以固萬國之基令曰卿

等上啓驟諭中誠事緣遺詔義歸推奪今不獲已俯依來啓云

戊午帝〇皇太子ハ即文德天皇ナリ太子自雅院移御中殿云甲子帝即

位於大極殿

皇太子ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子ノ皇位ヲ繼承スルハ常典ナリ而シテ群

臣コレヲ勸進スルハ必事故アルニ繇ル次下ニ

皇太弟

皇太弟ノ皇位ヲ繼承セシ事

天智天皇ノトキ大海人皇子○天武天皇太弟ヲイフ

リ、天皇位ヲ讓ラントスルニ及テ皇子辞シテ出

家ス、而シテ後故アリテ皇位ヲ繼承ス、皇太弟ノ

稱ハ大海人皇子ニ始ルト雖トモ然レドモ皇太

弟ニテ皇位ヲ繼承セシニ非ズ、故ニ省テ此ニ舉

ゲズ

嵯峨天皇 淳和天皇 村上天皇 圓融天皇

後朱雀天皇 後三條天皇 近衛天皇 順德天皇

龜山天皇

○嵯峨天皇

日本紀略日本逸史卷十七所引

賀美野天皇嵯峨天皇 諱賀美野云云 延曆

二十二年正月云云 平城天皇之即位立為皇太弟

類聚國史卷廿五 大同四年夏四月丙子朔天皇○平城天皇ヲイフ自

從去春寢膳不安遂禪位於皇太弟

○淳和天皇

日本紀略日本逸史卷廿一 天高讓彌遠天皇淳和天皇 諱大伴云云 弘

仁元年九月庚戌立為太弟、同十四年夏四月壬寅皇太弟出自

東宮遷御内裏○淳和天皇ノ即位ヲ繼承スルヲイフ

○村上天皇

皇年代略記 村上天皇諱成明云云 天慶七年四月廿二日立

皇太弟十九元三品大宰師朱雀 无男子以舍弟為子立之

日本紀略 朱雀院云云 天慶九年四月廿日天皇逃位於皇太

弟成明親王、詔止太上天皇号遷御綾綺殿今上廿一 新帝○村

皇上 上表再謝推讓、勅不許○村上天皇ノ即位ヲ繼承セシヲイヘリ

同書 村上天皇 云 天慶七年四月廿二日立為皇太子 御九年

○皇太子トアルハイカ ヲ 九年四月十三日受禪 御年廿一日

トアルハイカ ヲ 四月廿日ヲ以テ是トス

○圓融天皇

日本紀略 圓融院 云 康保四年九月一日立為皇太弟 九年云

云 安和二年八月十三日冷泉院天皇逃位讓於天皇于時新帝

年十一、新主於襲芳舍受禪

○後朱雀天皇

日本紀略 後一條院 云 寛仁元年八月九日皇太子敦明親

王院〇小一フ條請退儲皇即日立帝同胞弟敦良親王 〇後朱雀天

為皇太弟九年即任坊官等

扶桑略記卷廿八 後朱雀天皇諱敦良 云 長元九年丙子四

月十七日受讓年廿八歲

○後三條天皇

扶桑略記卷廿八 後朱雀天皇 云 寛徳二年乙酉正月十六

日天皇讓位於皇太子親仁親王 〇後冷泉天 同日第二皇子尊

仁親王 〇後三條天 立皇太子年十二歲

同書卷廿九 後三條天皇 云 治曆四年戊申四月十九日踐

祚 生年 廿五年

○近衛天皇

皇年代略記 近衛院諱體仁 云 保延五年八月十七日為皇

太弟 一、崇徳雖皇子坐依云 永治元年十二月七日受禪 三

今鏡 ハ重の 今孫女院 美福 時めの世孫ひて近衛のみうど生

より上達部 カマタチ さま 同くまあり集るふ 同徳 徳 より院 鳥

度と御仗 さうと 藤人 中務少輔 師 との 以 人 ころ さうと

皇胤紹運錄 後陽成院諱和仁後改周仁云 天正十二年正月十五日為親王、同十四年九月廿日御元服、同年十一月七日受禪

池田藤屑卷十三 文月〇天正十四年七月ナリは内宮一の宮王〇誠仁親

即陽光院贈太陰上天皇ヲイフ隱れさせ給へり、〇正親町天皇もけふあす禊らせ給へり

思ひまじひたり、皇ヲイフ天もけふあす禊らせ給へり

きとあつひ給へり、思ひまじひたり、〇天正十四年七月ナリは内宮一の宮王〇誠仁親

めもあつひければ親王〇尊号は内宮一の宮王〇誠仁親

去上天皇〇誠仁親ヲ贈リタルナリ、〇周仁親を一所内宮皇〇尊号は内宮一の宮王〇誠仁親

とやまれり、〇周仁親を一所内宮皇〇尊号は内宮一の宮王〇誠仁親

まじひ給へり、〇周仁親を一所内宮皇〇尊号は内宮一の宮王〇誠仁親

は此字一 津ゆぐり給へり、〇周仁親を一所内宮皇〇尊号は内宮一の宮王〇誠仁親

日嗣皇子

日嗣皇子ノ皇位ヲ繼承セシ事 應神天皇 用明天皇

〇應神天皇

仲哀天皇紀 八年九月巳卯詔群臣以議討熊襲時有神託皇
后〇神功皇而誨曰、天皇何憂熊襲之不服是齋之空國也、豈足
舉兵伐乎、愈茲國而有寶國、譬如美女之暎、有向津國云、是謂
栲衾新羅國焉云、時神亦託皇后曰云、我所見國何謂無國
以誹謗我言、其汝王之如此言而遂不信者、汝不得其國、唯今皇
后始之有胎、其子皇〇應神ヲイフ天有獲焉、然天皇猶不信、以強擊熊襲
不得勝而還之

九年春二月丁未天皇忽有痛身而明日崩〇仲哀天皇崩而
ル者ハ應神天皇ナリ、時ニ天皇未皇紀六年十二月ノ條ニ曰ク、
中ニ在テ皇位ヲ繼承ス、繼體天皇皇紀六年十二月ノ條ニ曰ク、

天皇ノ病彌留崩于大殿
 用明天皇紀首十四年
 敏達天皇ノ秋八月
 淳中倉太珠敷
 天皇○敏達天皇崩九月戊午天皇即天皇位○敏達天皇病終
 ヲ知テ皇弟橘豐日皇子ニ詔シテ後事ヲ託ス橘豐日尊ハ日
 嗣皇子ナリ大兄ノ事委シクハ日嗣ニ大兄ト稱スル者ハ日
 皇太子ノ條ニ辨ズ且シク合觀スベシ



皇位繼承篇卷之二 終

